



痢疾の弁証論治

黄 懷龍

一. 概 説

(一) 概 念

痢疾とは、腹痛・裏急後重（腹痛があり便意を催すが、排便後も腹痛・便意がなくならない）赤白の膿血を下痢する病証である。

西洋医学の関連疾患；①細菌性赤痢、②アメーバ赤痢、③潰瘍性大腸炎

二. 病因病機

(一) 病 因

1) 外邪の感受

湿熱、疫毒、寒湿の→外邪の侵襲→大腸を阻滞→気血瘀滞→脂膜と血絡を損傷→痢疾

2) 飲食不節

不潔な物、油っこいもの、冷たいもの→脾胃を損傷→体内に湿熱が発生→気血鬱滞→脂膜と血絡を損傷→痢疾

(二) 病 機

1) 基本病機

邪が大腸を阻滯して、大腸の伝導機能が障害されたために、気血が塞阻され、脂膜と血絡が損傷される。

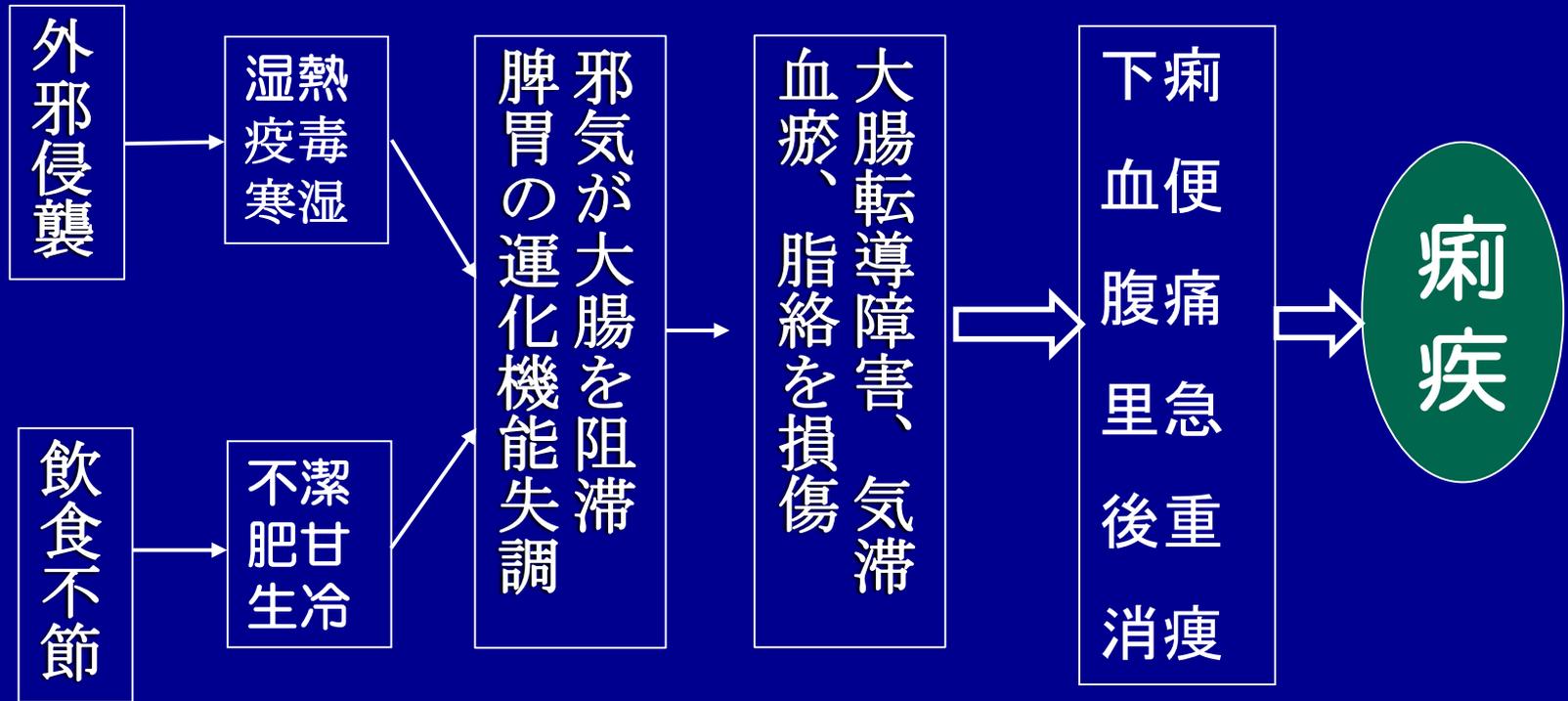
2) 病位：大腸・胃・脾・腎と関連する。

3) 病理の性質

暴痢→実証：湿熱・寒湿

久痢→虚証あるいは虚实挟雑証

痢疾の病因病機



二. 弁証論治

(一) 類証鑑別

	痢 疾	泄 瀉
病 機	邪が大腸を阻滯し, 大腸の伝導機能失調, 気滞血雍となり, 脂絡が損傷される	脾虚によって湿邪が内盛し, 脾の運化失調, 気機の昇降, 清濁を分別できない
大 便	膿血便	溏薄あるいは水様性あるいは未消化物が混じる
随伴症状	裏急後重・腹痛は排便後に軽減しない	裏急後重はない. 腹痛は排便後に軽減する
病 位	直腸.S状結腸粘膜の炎症と潰傷	胃腸粘膜(おもに小腸)の炎症

(二) 弁証のポイント

1) 暴痢と久痢の鑑別

	暴痢	久痢
発症	急激	繰り返す
経過	急性 短い	慢性、長い
症状	激しい腹痛・腹部脹満で押えられるのを嫌がる。裏急後重・下痢の回数が多い。典型的な膿血便	腹部がシクシクと痛む。下痢粘液および膿血が混じる肛門の墜重感

2) 熱痢と寒痢の鑑別

	熱 痢	寒 痢
大便	血の色が鮮やか・質が稠厚。生臭さが強い	粘液は血液より多い・質が稀薄。生臭さが弱い
里急後重	強い	弱い
兼症	口臭・口渴・尿黄赤	冷え・顔色が白い
舌、脈	舌質紅・苔黄膩・脈滑数	舌質淡・苔白・脈沈細

(三) 治療原則

1, 暴痢：清腸化湿、調氣活血

通：消積導滯(通因通用)

調：調氣→里急後重の感じが消失

活血→膿血便が停止

2, 久痢：調補脾胃、兼清腸府

扶正：補 

澁→昇拳固澁止痢

祛邪：消積導滯、蕩滌余邪

三. 証 治

(一) 暴 痢

1、湿熱痢

【症 状】裏急後重、腹痛で押えられるのを嫌がる、尿少て色が濃し、下痢に赤白の膿血が混じる肛門の灼熱、舌質紅、苔黄膩、脈滑数。

【治 療】清腸化湿・調気行血

【方 薬】芍薬湯

2. 疫毒痢

【症 状】 発病が急激、鮮やかな紫血を下す、高熱、便が生臭い、激しい腹痛、裏急後重は湿熱痢より重い、はなはだしい場合は四肢厥冷、神昏、痙厥、舌質紅絳苔黄燥、脈滑数あるいは微細。

【治 法】 清熱解毒・涼血除積

【方 薬】 白頭翁湯十芍薬湯

3. 寒湿痢

【症 状】 赤白の膿血が混じる下痢で、白いものが赤いものより多い、あるいは白いゼリー状のものが混じる、腹痛、裏急後重、胃院脹悶、舌苔白膩、脈濡緩

【治 法】 燥湿温中・散寒導滯

【方 薬】 胃苓湯

(二)久痢

1. 陰虛痢

【症 状】 下痢が遷延し、少量で粘っこいゼリー状の膿血便、腹痛、裏急後重、心煩、口渇、午後潮熱、痩せ、舌質紅絳、少苔脈細数

【治 法】 養陰清腸

【方 薬】 駐車丸

2. 虚寒痢

【症 状】 下痢を繰り返す、大便が稀薄で白いゼリー状の粘液或は紫暗の血便を伴う、甚だしい場合は下痢が止まらなし、腹部がヒリヒリと痛む。腹部を暖めたがる、摂食量が少ない、精神不振・四肢冷え、腰がだるい、寒がる、舌質淡苔白、脈細弱

【治 法】 温補脾腎・収澁固脱

【方 薬】 桃花湯合真人養臟湯

3. 休息痢

【症 状】 下痢が不定期に起こる、不適切な飲食や冷えた後、疲れた後に大便の回数が増える、飲食量が減少、倦怠感、寒がる、大便に粘液或は赤色のものが混じる、舌質淡苔薄白、脈沈濡軟或は細弦

【治 法】 発作期： 湿熱—清腸化湿導滯
寒湿—温中化湿導滯
休止期： 脾気虚—健脾益気
脾腎陽虚—温補脾腎
肝鬱犯脾—抑肝扶脾

【方 薬】 芍薬湯、胃苓湯、香砂六君子湯、
附子理中湯、痛瀉要方



ご清聴ありがとうございました！